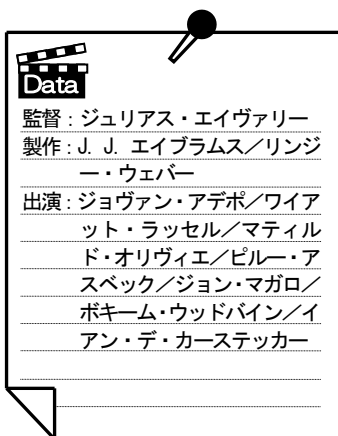




👁️👁️ みどころ

ナチスドイツの「Uボート」は連合国にとって大脅威だったが、もしヒトラーがゾンビのようなバッド・ロボット兵器を完成させていたら・・・？

落下傘部隊（空挺部隊）の展開はハマればカッコいいが、敵地に潜入しての破壊工作は困難な任務。しかして、“Dデー”成功のカギを握るこの空挺部隊の任務は？その達成は？

本作は『プライベート・ライアン』（98年）にも匹敵する、そんな戦争映画大作！そう思っていると、後半からは「カメ止め」現象を生んだ『カメラを止めるな！』（17年）と同じような（？）、ゾンビの登場となるからビックリ！

その“落差”に驚きつつ、「J. J. エイブラムスが贈るサバイバル・アクション大作！」をしっかりと楽しみたい。

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— *

■もし、ナチスドイツがこんな兵器を開発していたら？■

ナチスドイツの「Uボート」と呼ばれた潜水艦は、第2次世界大戦の当初は連合国側の大きな脅威になった。また、敗戦直前における原爆開発や現在のミサイルに相当するロケット弾の開発も、アメリカに少し遅れただけだった。そんな風にな新兵器の開発に熱心だったナチスドイツが、もし特殊な“血清”を完成させることによって、死者を蘇らせ、人間の能力に数倍するパワーをもった兵士を作り出していたら・・・？

それを“ゾンビ”と呼ぶのか、“バッド・ロボット”と呼ぶのかは別として、そんな発想で作られたホラー映画とも言える本作は、当然B級映画・・・？

■□■いやいや、本作はレッキとした戦争映画大作！■□■

スティーヴン・スピルバーグ監督の『プライベート・ライアン』（98年）は、冒頭約20分間のリアルで迫力ある戦闘シーンが“売り”だったが、それと同じくらい（？）に、本作冒頭に見る連合国側によるDデイのノルマンディー上陸作戦に合わせたパラシュート部隊投下作戦のシーンは迫力満点。

本作冒頭、フランスのシェルブランという村に降り立つ米国第101空挺師団の任務は、連合軍の通信を妨害している教会のラジオ塔を破壊すること。これを合図として、連合軍は大規模な空爆を開始することになるから、そこではタイミングが大切。タイミングを失すれば連合国側の作戦に変調を生じさせてしまうから、責任重大だ。したがって、その兵士たちが軽口を叩いていたのは、ほんの少しだけ。地上からの集中砲火で飛行機が被弾し、目的地の少し手前での一斉降下を余儀なくされると、その後の兵士たちの運命は・・・？

そんな本作はゾンビ映画？B級映画？いやいや、これは『プライベート・ライアン』にも匹敵する、レッキとした戦争映画大作だ。

■□■戦争映画だが、美人の村娘に注目！■□■

日本海軍の落下傘部隊（空挺部隊）は、第2次世界大戦の蘭印作戦においてスマトラ島のパレンバンで敵前での奇襲落下傘降下を敢行し、「パレンバン空挺作戦」を成功させた。軍歌「空の神兵」では、その活躍ぶりを「藍より蒼き 大空に大空に 忽ち開く百千の 真白き薔薇の花模様 見よ落下傘空に降り 見よ落下傘空を征く」と歌われている。しかし、敵の対空砲火の中で、パラシュート降下する空挺部隊の兵士たちは大変だ。地上に降り立ったところを敵兵に発見されればたちまちアウトだし、降り立った後の部隊編成や武器の集結等ができなければ、本作でも教会のラジオ塔爆破という任務に取りかかることすら不可能だ。

現実には、降下後直ちに多くのドイツ兵に取り囲まれた指揮官の軍曹は「ついてねえ！」と叫ぶことしかできなかった。新兵のエド・ボイス二等兵（ジョーヴァン・アデボ）はそれを援護しようとしたが、それを制したのがフォード伍長（ワイアット・ラッセル）。そんなことをしても無駄死にする兵士が増えるだけ。そう冷静に分析している彼はさすが百戦錬磨のつわものだが、彼を中心に終結できた兵士は数名だけだった。幸い武器は大丈夫だったから、フォード伍長は任務決行を命令し、教会を目指して歩きはじめたが、そこで意外にも1人の村娘と遭遇することに・・・。

当然、この娘はフランス語しかしゃべれないはず……。しかし、フランス語をしゃべれる兵士の通訳で「危害は加えない」ことを彼女が納得すると、彼女に村と教会への案内を頼むことに。『プライベート・ライアン』は冒頭の戦闘シーンの後も本格的な戦争映画の道を歩んだが、本作は美しい村娘クロエ（マティルド・オリヴィエ）の登場によって、大

きく“協道”にそれていくことに。

■教会の地下では何の実験を？■

幼い弟と病気の伯母と共に暮らしているという美しい村娘クロエがなぜか英語をしゃべることができるというのはちょっと「出来すぎ」だが、ストーリーの進行を早めるためにはそれは好都合。しかも、クロエの両親はナチスの“ある実験”のために、教会に連れて行かれて殺されたそうだから、ナチスへの復讐心をしっかり持っているのもフォード伍長達にはピッタリだ。教会爆破の任務までの残り時間がわずかしかないうちフォード伍長は無理を承知で作戦決行を狙ったが、村を支配しているナチスの将校ワフナー（ピルー・アスベック）が、クロエの家の中に入ってくると、クロエの服を脱がしにかかったから、やむなくエド・ボイスはワフナーを叩きのめして、捕虜にしたが、そんな協道にそれていると本来の任務決行が余計遅れてしまうのでは・・・？

ここらあたりから、本作の空挺部隊の主人公が百戦錬磨のリーダーたるフォード伍長以上に、新米の黒人兵ながら合理的な判断でいつも臨機応変に対応しているボイス二等兵だということがわかってくる。そのため、教会内で密かに行われているナチスの“ある実験”を探りあてる役柄もボイスに割り当てられているから、教会の地下室にある秘密の実験施設を探り回るボイスの姿に注目！

そこでは、ある“血清”の完成が間近らしい。その完成した血清を注射すると、たちまち死者は蘇り、人の数倍のパワーを持ったロボット兵器に生まれ変わるそうだが、さあ、ボイスはそれをどこまで目撃できるの？

■B 級映画、ゾンビ映画の面白さをタップリと！■

捕虜にしたワフナーから、教会を警備するナチス側の体制を聞き出すのがフォード伍長の仕事だ。そのための拷問の1つや2つは、彼にとって良心の呵責などなく、お手のもの！しかし、それを見ているボイス二等兵はそうはいかないから、変なところで仲間割れ（？）するのは困ったものだ。

てなわけで、本作後半は、本格的戦争映画の王道から大きくそれて B 級映画になっていくが、それを加速するのはゾンビ映画になっていくためだ。ワフナーの扱いを巡って仲間割れ（？）している間に、ソツないワフナーが逃走を図る混乱の中、1人の兵士がワフナーの銃弾を受けて死亡。そこで、とっさにボイスが思いついたのが、教会の地下から盗みとってきた1本の“血清”の活用だ。“ダメもと”覚悟で死亡した兵士にそれを注射してみると、何とその兵士は見事に死から蘇ったうえ、強力なパワーを発揮し始めたが、残念ながらそれはゾンビ人間だったから、アレレ……。2018年は『カメラを止めるな！』（『シネマ 42』17頁）による「カメ止め」現象が日本列島を席卷し、ゾンビ映画の恐ろしさと面白さを堪能させてくれたが、さて、本作にみるゾンビ兵士の姿とは？

いやいや、これはホンの序の口だ。本作のクライマックスでは、ほとんど死にかけていたワフナーは自ら血清を注射して、パワー豊かな兵士として蘇るとともに、それに対抗するべくフォード伍長も自分の身体にそれを注射することになるから、それに注目！しかして、それはどんなシュチュエーションで？本作後半からクライマックスにかけては、そんなB級映画、ゾンビ映画の面白さをタツブリ堪能したい。

■□■任務の達成は？生き残るのは？■□■

任務の達成と主人公の生存を両立させるか否かは、どんな映画でも微妙なもの。ゲイリー・クーパーとイングリット・バーグマンが共演した『誰が為に鐘は鳴る』（43年）では、鉄橋の爆破という任務達成と恋人マリアの脱出と引き換えに、主人公ロバート・ジョーダンは命を失ったが、さて本作は？

教会の電波塔を爆破するためには、時限装置と共に適切な場所に適切な量の爆弾を装填しなければならないから、それ自体が大変。そのうえ、そもそもどうやって教会内に入り込むの？それは、ボイスがたまたま死体の中に紛れ込んで教会内に入り込んだ“先例”が参考になったが、フォード伍長以下数名の兵士たちの本来の任務決行に向けての作戦とその結束ぶりは、さすが米国第101空挺部隊、お見事なものだ。しかし、血清によって蘇り、ものすごいパワーを身につけたワフナーがフォード伍長への復讐のために教会内に入ってきたり、教会の地下で実験台になっていたゾンビたちが、混乱の中で牢屋からゾロゾロと出てくると、その対応は？また、教会のラジオ塔爆破作戦と共に、実験台として連れ去られたクロエの幼い弟の救出作戦も含まれていたから、クライマックスでは美女クロエの奮闘ぶりにも注目したい。しかして、『誰が為に鐘は鳴る』における鉄橋の爆破と同じような、教会のラジオ塔爆破という本来の任務達成は？他方、その責任者として困難な任務にチームを率いたフォード伍長の運命は？さらに、実質的に後半からは本作の主人公になったボイス二等兵の運命は？

2019（令和元）年5月17日記